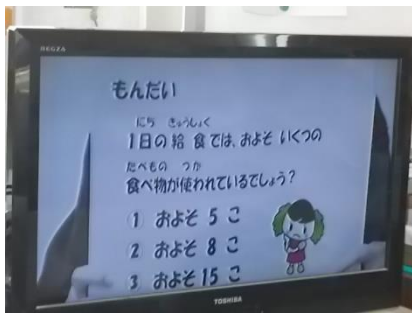


身体によいこと

1月18日（木）朝に、テレビ放送で「給食集会」を行いました。

まず週1回来校する派遣栄養士から、クイズを通して給食の栄養バランス等について話がありました。給食ではたくさんの食材が使われていて、栄養素がバランスよくとり入れられるように工夫されているのです。

続いて来週の給食ウィークに行う取り組みについて話がありました。おいしい給食が食べられるようにするには、多くの人々の力が必要で、感謝の気持ちをもって食べることが大切です。給食委員会の人からこの場で栄養士に、そして給食室で調理している給食調理員にも伝わるように、お礼の言葉を言いました。給食感謝ウィークで、改めてそのことを確認しながら各自のよりよい食べ方に取り組めるよう、給食委員長からも働きかけがありました。



3時間目には、6年生が「薬物乱用防止教室」の授業を受けました。保護司の方に講演していただき、薬物についてのことや最近ニュースなどで話題になる「オーバードーズ」についてなど、詳しく教えていただきました。「オーバードーズ」に関連して、処方された薬は飲み切る、家族の中でやりとりしない、グレープフルーツジュースでなく水で飲むなど、薬の正しい服用の仕方についてもお話いただきました。ただしくつかわないと、薬なのに身体にとって毒のようになってしまうのだな、と思われました。時々うなずいたり驚いたりしながら、6年生は真剣に話を聞き、授業の最後には質問や感想がいくつも出されていました。

保護司の方は違法な薬物を使ってしまった人と話す機会が少なからずあり、その人たちは話してみれば「普通の人」なのだそうです。ただ、相談する相手がいないなどさびしい思いを抱えていて、そのために薬物を使用してしまう。現実の人間はうそをつくなどしてかかわる中で傷つけられることがあるが、薬物は服用すれば確実に効果が表れてうそがない、だから薬物にたよってしまう、という話がありました。現実の人間としては、深刻に受け止めなければならない話だと感じました。

